27PA-am105

濃尾地震 (明治 24 年) における薬剤師の活動

○五位野 政彦[1]（[1]東京海道病院薬）

【はじめに】　わが国の薬剤師は，1891(明治 24)年 10 月 28 日の濃尾地震(愛知・岐阜:推定 M8.0)においてはじめて激震災害に対して活動を行った．この活動は各種薬学史資料に記載されているが，多くは「日本薬剤師会史」(1973)の引用である．今回薬学関連文献(一次資料)からその内容の再調査を行った．

【調査方法】　下記資料を調査した．「藥學雜誌」「藥劑誌」「日本薬剤師会史」「都薬三十年のあゆみ」「東京都薬剤師会五十年」「大阪府薬百年」「濃尾震誌」．

【結果】　「日本薬剤師会史」は正確な情報を伝えている．そのほかに次に示すような事項が判明した．1. 東京薬剤師会から 3 名の会員薬剤師(近藤佐五郎, 中山(甚三郎), 深澤(儀作))が現地に派遣された．岐阜県知事から現地滞在の延長を求められ，2 名が 1 月 15 日まで業務を行った．滞在費用(計 32 円 37 銭 : 含延長費用 12 円)は東京薬剤師会の負担とした. 2. 名古屋詰陸軍薬剤官喜多野金助の協力があった. 3. 大阪, 神戸の薬剤師の派遣もあった[1]. 4. 被災薬剤師への寄付金があった.

【考察】　「日本薬剤師会史」「東京都薬剤師会五十年史」にあるように，薬剤師は明治 20 年代にすでに現代の業務と同じ災害救助活動を行っていた．この濃尾地震での薬剤師の具体的な活動内容は 1. 水質検査　2. 救護施設内での調剤　3. 医薬品供給であった．特に感染症(窒扶斯熱:チフス)流行下での井水検査は重要であった．滞在期間の延長を求められたことは，「薬剤師の職務を公衆に示した」[2]ものであった．薬剤師による災害時の衛生化学関連業務の重要性が認められた．

【今後の課題】　東京からの派遣者名は判明したが，関西の派遣薬剤師名は不明であった．この点は今後の課題としたい．

【文献】　1) 藥劑誌, 65-68:1892　2) 薬学雜誌, 290-291:1892